

▼秋季大祭おつとめの様子。手前は、前会長五十日祭仮祭壇



ひきよせ

発行所
天理教夕張大教会
〒068-0029 北海道
岩見沢市9条西6丁目21
☎ 0126-22-1248
FAX 0126-23-7275
yubaridai146@gmail.com

ホームページ
bariten.main.jp



LINE 友達登録
お願いします

「ふしから芽が出る」ことを信じて



▲松田世話人先生、お入り込み



▲秋季大祭は晴天に恵まれた

お知らせ

冬のお楽しみ会 11月30日(水)

月次祭 12月15日(日) 9時30分開扉献饌

大掃除・餅つき 12月28日(土) 午前10時〜

在りし日の面影に心寄せて

秋季大祭の模様

秋晴れの10月15日、夕張大教会にて、秋季大祭、また8月30日に出直された藤田文雄五代会長の五十日祭並びに合祀祭が執り行われた。

朝から祖霊様側の中段に祭壇が設けられ、多くの献花と御供物でいっぱいになっていた。例月の祭典より30分繰り上げられ、午前9時より開扉献饌。祭儀のち祭文奏上。その後、松田理治世話人先生と共に、座りつとめ。十二下りのてをどりが勤められた。

祭典終了後、速やかに撤饌・復旧がなされ、松田先生を祭主に、前会長の五十日祭が執り行われた。祭壇の前にて祭主が五十日祭詞を奏上し、大教会長をはじめ家族・親族が順々に前会長の祖霊様に参拝した。引き続き準備の後、合祀祭が執り行われ、松田先生の手によって、大教会祖霊様のお社へ合祀され、献饌のち合祀祭詞奏上。その後代表参拝となり、家族・親族に続き、理事役員代表部内教会長代表、信者代表が参拝した。

講話には松田先生が壇上に上がり、前会長の思い出と共に、出直しの教理について、諄々と説かれた。また講話の最後に「この教服は、前会長さんのものをお借りしています。まだ『借ります』とも言っていないなかったので、後ほど『お借りしました』とお礼しておきます」と話され、参列者の笑顔を誘った(別頁、講話全文掲載)。

最後に大教会長のお礼のあいさつをもって、五十日祭と合祀祭は滞りなく終了した。それぞれが、在りし日の面影を胸に、前会長を偲ぶ一日となった。



夕張大教会世話人


神殿講話
松田 理治 先生
 まつだ まさはる

慣例にならいまして、一言お話をさせていただきます。

ただいまは、夕張大教会五代会長藤田文雄先生の五十日祭、引き続き合祀祭を勤め終えさせていただきました。先の秋季大祭と合わせて、遠近問わずご参拝くださいました皆さま方に、この場をお借りして心よりお礼かたがたお劳いを申し上げます。

前会長様が去る8月30日に出直されてから、早くも1ヶ月半が経ちました。ようやく心の整理がつき始めてきた方、まだまだ突然のお出直しの事実が実感できない方、いろいろといらっしゃることかと推察しま

す。私はどちらかというと、後者の方だと思います。

何故かと申しますと、こちらでのご葬儀等を勤めてから、おちばに帰って後、多くの方々から、前会長様のお出直しに驚かれた、亡くなられたということが信じられない、というような声を聞いているからだと思います。今般、私がこちらに赴く日の前日にも、ある方から、「出直された日の1ヶ月くらい前に、自分の話所の前で、長時間にわたって立ち話させていたのに」という話を聞きました。もうしばらくは、このような例が続くだろうと感じています。

さて、私にとつての藤田文雄先生との思

い出といえ、何をおいても、ある年の3月に行われた、春の学生おちばがえり(以下、春学)の式典に来賓として参加されたときのことです。何故かと申しますと、他の来賓の方々とはハッピー姿で来られたのに対し、先生お一人だけ羽織袴でお越しになられたからです。

婦人会総会や青年会総会では、来賓は羽織袴を身につけますが、学生会の行事ではハッピー着用になります。

当時、私は青年会本部の副委員長をしており、春学の式典の来賓の一人として、集合場所である本都話所に行きました。(私が青年会本部副委員長の頃ですから、2005年から2007年の春学のいずれかになるでしょう)当然、来賓である表統領、内統領、真柱室長、布教部長、海外部長、かなめ会委員長、各会正副委員長は、皆ハッピー姿です。式典開始時刻が迫り、いよいよ本部話所から、式典会場である本部中庭に移動しようという時、当時、教区長会副委員長であった先生が現れ、一言「あれ?」と申され、式典を前にしてやや堅苦しかった雰囲気、笑いととも一気に和んだという記憶があります。

当時表統領の飯降政彦先生は、前会長様の姿を見て「藤田先生、一番偉く見えるから、どうぞ、我々の先頭に行ってください」と言われて、再び笑いに包まれたことも覚えています。先立つて葬儀のためにこちらに来たとき、この話をいくらの方から聞きましたので、大教会でも結構有名な話なんだなあと思った次第です。

さて、本日は、亡くなられた方、つまり

天理教では出直された方といいますが、それらの方の祖霊様に礼拝することについてお話し申し上げたいと思います。

こちら夕張大教会では、ご覧のようにお社が4つあるのがわかります。真ん中のお社が親神様、そして向かって右が教祖、左手は祖霊様になります。祖霊様のところは2つお社があります。向かって右が中山家の祖霊様、左が当大教会に繋がる人々の祖霊様が祀られています。今しがた、前会長の祖霊様を左側のお社に合祀をさせていただいたところです。

おちばの天理教教会本部では、霊祭が年に2回執り行われています。具体的には3月27日に行われる春季霊祭、9月27日に行われる秋季霊祭があります。一般の教会でも3月と9月の、それぞれの教会で決められた日に霊祭が行われます。

おかきさげに、「それ人間という身の内というは、神のかしもの・かりもの、心一つが我がの理」と教えられています。言い換えれば、私たちは親神様から身体をお借りしているのです。また、天理教では、死ぬというのは古い着物を脱ぐようなものでありと説かれています。つまり、人が死ぬと、その魂は古い身体を脱ぎ捨て、新しい身体をもらって、再びこの世に出てくるということです。

私たち夫婦には、3人の子ども(長男、二男、長女)がいます。長男は大学4年生、次男は高校3年生、長女は中学校1年生です。彼らが幼少の頃、私も親は彼らに対して、あれしなきゃいけない、これしなきゃいけないと、よく言っていた時期がありました。



そうしたある日、こんなことがふと頭をよぎりました。私たちの子どもたちは、ご先祖様の生まれかわりではないだろうかとおかきさげに、「内々互い／＼孝心の道、これが第一」とあるが、孝心とは親に限らず、その上の世代にもなされ得ることである。そして、恩のある先祖の生まれかわりである子供に、どうして叱れようか、と考えるようになりました。

亡くなった人たちはもう既に生まれかわっているかもしれないのだから、祖霊様のお社は必要ないというような考え方をする人がいるかもしれません。それはそれで理解できることだと思います。

しかしながら、私たちが存在するのは、親々のお蔭であるということをお忘れてはいけません。私たちの先人がいたからこそ、私たちは今、この世でありとあらゆることができるのです。私たちは、親々から頂いている徳に、日々感謝することが欠かせません。先人の足跡を偲ぶということは大切なことです。

この祖霊様のお社には、また、ここではなくても、皆さんそれぞれの教会の祖霊様のお社には、皆さんの親やご先祖が、祀られていることでしょうか。祖霊様のお社の前に座り、それらの人々を礼拝し、お話しして良いと考えています。

私が本部の青年として勤めていたころ、ある本部員先生（当時は准員先生）からこのようなことを言われました。「松田君、君は本部の神殿に、毎日参拝に行っているか?」「はい、行っています」実際に、毎日行っていましたから、胸を張ってそう答えまし

た。「それでは、教祖殿には行っているか?」「はい、行っています」本当のところ、私は毎日神殿には参拝に行っていたものの、教祖殿には行かず、神殿から教祖を拝していたことがよくあったのです。そして先生は私の行動を見透かしたかのように、「実際に教祖が教祖殿にお住まいしておられるのであるから、必ず教祖殿に行くように」とのお仕込みを受けました。

続いて先生は、「それでは、神殿で親神様、教祖殿で教祖、祖霊殿で祖霊様を拝むとき、君は何を申し上げているか?」と仰せられて、私がしばらく考えていると、先生は「つまり、親神様、教祖、祖霊様に申し上げることは、同じことか、違うことか?」と付け加えられました。あまり取り立てて考えたこともなく、またその頃の私は、親神様にはこのこと、教祖にはこのこと、祖霊様にはこのことというような区別をつけたこともなく、ただ漠然と同じようなことをそれぞれに申し上げていたように思います。

そして先生は、このように教えてくださいました。「ぢば・かんろだいにお鎮まりくださる親神様には、絶え間なく頂戴している十全の御守護にお礼を申し上げ、続いて変わらぬ御守護をお願い申し上げます。」成程十全の守護をもって私たち人間をお創りくだされ、今もなおお育てくださる親神様には、第一に日々の御守護にお礼もお願いもさせていただかなければなりません。

「御存命の教祖には、月日のやしうとして、たすけの上に常にお働きくだされていることにお礼を申し上げ、また、ひながたの道

を通ることをお誓い申し上げます。」教祖のお立場として、月日のやしう、ひながたの親存命の理として教えられるからこそ、何を、おいても日々のお働きにお礼をし、私達もひながたを歩むことを確認するということが大切です。

そして先生は、祖霊様への拝み方については仰られなかったもので、私は、「それでは祖霊様には?」と尋ねました。すると先生はすかさず、「好きなことを言え」と言ってくださったのです。

「好きなことを言え」ということの本意は、祖霊様には、生前に普段から接していたような態度で、今日はこんなことがあった、明日はこんなことがある、自分の身の回りにはこういうことが起こっているけれども自分はこう思う、などというような話をすれば良いのかなと私は悟ります。決してかしまつたり、他人行儀になる必要はありません。

たつた今、仮のお社から、この大教会の祖霊様のお社（向かって左側）に前会長の祖霊様が合祀されました。この話の冒頭で、前会長様のお出直しについて、心の整理が出来てきた方、まだまだ実感できない方、いろいろいらつしやるだろうという話をしました。いずれであろうとも、どうぞ皆さま方には、これまで生前の前会長様に対してなさってきたのと同様の形で、前会長の祖霊様に接してくださることを願ってやみません。

前会長様のお出直しは、藤田家並びに大教会にとつて、大きな節となりました。しかし、「ふしから芽が出る」とのお言葉があ

るように、この度の節から、頼もしい芽が出てくることを信じます。殊に今は、教祖140年祭に向かう三年千日の旬の真つただ中です。この時句に私たちががなすべきこと、即ち、『論達第四号』に教えられている如く、「ひながたを目標に教えを実践し、たすけ一條の歩みを活発に推し進める」ことは、前会長様の私たちに對する思いと、寸分違うことはないはずで

昨年、秋季大祭にお呼びいただいたときにも講話で申しましたが、私たちが今、具体的に求められていることは、論達にて示されているように、

- ① 教会へ足を運ぶ
- ② ひのきしんに励む
- ③ 身近な人へをいがけをする
- ④ おつとめをつとめる
- ⑤ おさづけを取り次ぐ

ということですが、これらをしつかりと実行することによって、親神様、教祖にお勇みいただき、そして私たちの親々にも喜んでもらえるよう努めていくことをお願いして、本日の講話を終えたいと思います。

ちなみに付け加えますと、今日私が身につけています教服と冠は前会長様のものです。殿内にあります前会長様の写真に写っている教服と同じものかどうかわかりません。お借りしますという旨、前会長様にお伝えしておりますので、この後の締めのお参拝の時に、「お借りました。ありがとうございます」というような御礼の話もさせていただきます。

ご静聴誠にありがとうございます。

(文責・編集部)

去る10月27日、本部中庭にて青年会総会が執り行われた。また、前日26日夜には、泉水広場にて前夜祭も開催された。

夕張分会は昨年に引き続き、前夜祭に模擬店を出店。今年も、昨年人気が高かった豚丼を販売することになった。衛生面での安全を考慮し、昨年より手順を大幅に変更する必要があったが、柔軟に対応して開店を迎えた。

開店直前から、夕張分会の店舗前には行列が出来始め、午後6時に前夜祭がスタートすると、あっという間に数十人の大行列が出来た。目の回るような忙しさの中、各スタッフが自分の役割を一生懸命こなし、アツアツの豚丼が次々と提供された。豚丼を求める行列は最後まで途切れることはなく、1時間半足らずで見事完売した。準備、調理、販売、片付けと、汗だくになったが、やり遂げたスタッフには皆笑顔が光っていた。

迎えた27日朝、予報では雨だったが、晴天の御守護を頂いて、本部へ出発。分会旗を先頭に、本部までの道を練り歩いた。総会では中山大亮青年会長の、心を澄ますための3つのポイント「『待つこと』『自分の心に矢印を向ける』『悟りを人に話す』」という話を心に納め、青年会歌を高らかに大勢の会員と共に歌い、より一層の成人を誓い合った。

今回の青年会総会へは、夕張より24名、うち青年会員12名が参加した。共に時を過ごす喜び、共に何かを成す喜びに溢れた総会であった。今回参加出来なかった会員も、是非、来年の総会や分会総会、大教会での諸行事に参加し、共に喜びの時間を過ごしましょう！
(藤崎勇委員長)

あつきたつりようの勇み心を奮い立たせ

第98回青年会本部総会

みちのだい育み塾・婦人会

10月29日10時より、5名のご参加を頂き、みちのだい育み塾を開催致しました。

おつとめ、支部長様のお話しに続き、女鳴り物の勉強をさせて頂きました。講師に栗山分教会前委員長部長・富山真理子さんをお迎えして、教祖に直々にお教え頂いた事や基本的な事から聞かせて頂き、質疑応答では活発に次々と質問が出て、次回は皆さんで合奏したいですと、感想を頂きました。昼食は6名のひのきしんの方々



▲講師の指導に、熱心に耳を傾ける

の手作り天丼を、バイキング形式で皆と一緒に頂き、午後からのフリースタックは、少人数ながら支部長を中心にサイコロトークから深い話まで、有意義な1時間となりました。
(担当・竹田愛子)

▶終始和やかな雰囲気で行われた



▶おちばで共に過ごせる喜びを胸に、勇んで総会会場へ向かった
(27日総会当日・夕張詰所前)



▶二年連続出店の模擬店は、開始直後から長蛇の列で即完売
(26日前夜祭・西泉水広場)



29日	みちのだい育み塾
27日	青年会本部総会
26日	会長、かなめ会
25日	本部秋季大祭、通拝式
24日	たすけ推進会議(詰所)
23日	会長、本部神殿当番
19日	会長、兵神大秋季大祭参拝
18日	会長、栗山分巡教
17日	会長、夕喜元分巡教
15日	合祀祭
14日	秋季大祭、前会長五十日祭
11日	合祀祭準備
8日	会長、峰延分巡教
6日	会長、前会長夫人、幌部分へ
5日	会長夫人、清真布分へ
4日	会長、支部例会、組例会
1日	たすけ推進会議

大教会日誌抄 10月

庶務部 10月

▽初席	古屋一貴 (馬追)	10:10
	古屋浩司 (馬追)	10:26
▽詰所ひのきしん	梶川芳史 (新生)	10:29
▽教養掛	渡部 辰大 (善進)	
	12月3月(詰所当番)	
	梶川創一郎 (新生)	

にをいがけ実動について

◇活動報告
日時：10月31日 10時～15時
場所：岩見沢市内
参加人数：2名
内容：神名流し、戸別訪問(45件)
◆次回以降実施予定
日時：11月23日 10時～15時
12月22日 10時～15時
集合場所：夕張大教会